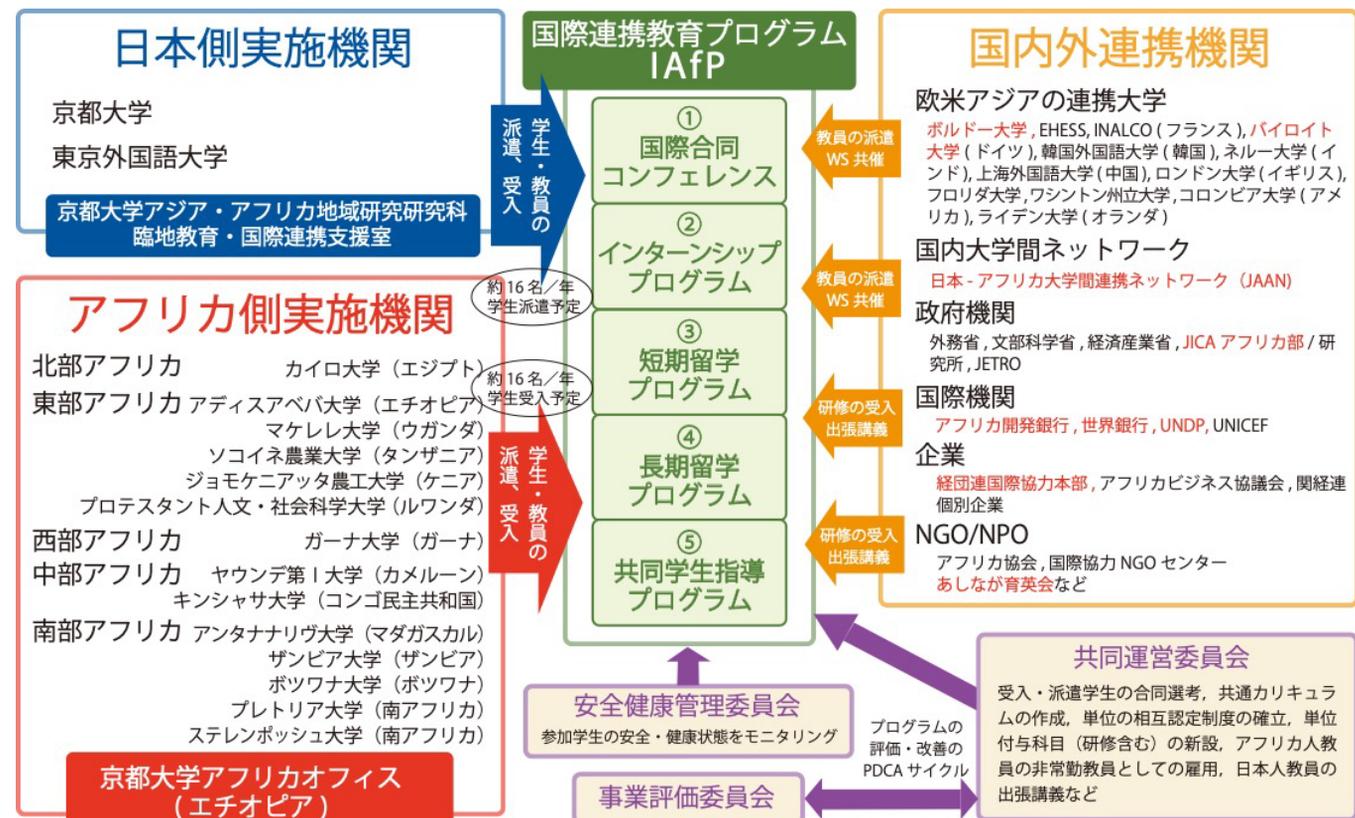


## 【事業の名称】(選定年度2020年度)

アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム

## 【交流推進事業の概要】

本事業は、既往のアフリカ研究の蓄積を活用するとともに、文系・理系の枠を超えたカリキュラムを提供し、アフリカでのフィールドワーク、日本及びアフリカでの研修を通じてイノベーション共創の基盤を構築することを目的とする。



## 【交流プログラムの概要】

以下の5つのプログラムを実施する。1. 日ア実施大学、欧米連携大学と共催する高度人材育成を目指した国際合同コンフェレンス、2. 学部/修士課程学生対象のアフリカでの集中講義と組み合わせたインターンシッププログラム、3. 学部/修士/博士課程学生を主対象とする双方向の短期留学プログラム、4. 学部/修士/博士課程学生を主対象とする双方向の長期留学プログラム、5. 博士課程学生を主対象とする学位取得を見据えた共同学生指導プログラム

## 【本事業で養成する人材像】

「持続可能な開発目標SDGs」の下、広く人びとを包摂し、危機や災害を乗り越える質の高い成長を達成するため、アフリカ各国・地域社会の固有性と在来知に通暁し、文系/理系、研究者/実務者の垣根を超えて、技術イノベーションと社会イノベーションの実現を主導し得る「超学際的」人材育成を目的とする。

## 【本事業の特徴】

アフリカで教育研究の実績を積み上げてきた京都大学と東京外国語大学がアフリカにおける連携大学14校と協力しながら、特に連携大学のうち3校を中心に据えて国際教育プログラムを実施する。

## 【交流予定人数】

|    |                               | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
|----|-------------------------------|------|------|------|------|------|
| 派遣 | 実際に渡航する学生                     | 0    | 6    | 8    | 8    | 8    |
|    | 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 | 0    | 6    | 8    | 8    | 8    |
| 受入 | 実際に渡航する学生                     | 0    | 5    | 8    | 8    | 8    |
|    | 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 | 2    | 5    | 8    | 8    | 8    |

## 【事業名称】(選定年度2020年度・(タイプB))

アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のためのプラットフォーム構築プログラム

## 【プラットフォーム構築の概要】

持続可能な開発目標(SDGs)を推し進める多様な分野の高度イノベーション人材育成のために、日本及びアフリカの大学間ネットワーク、またアフリカに関わる日本の大学と実務組織の幅広い教育連携を推進するプラットフォームを構築する。

### 5つのプラットフォーム構築プログラム

① 日本のアフリカに関わる大学間教育連携国内ネットワークの形成

② アフリカ及び日本の大学間教育交流ネットワークの形成

③ アフリカに関わる実務機関と大学をつなぐ協力枠組の形成

④ アフリカの大学における教育の状況に関する情報プラットフォームの構築

⑤ 安全健康、生活及び危機管理の情報プラットフォームの構築

#### 日本とアフリカの大学間国際教育連携の加速

・アフリカの重要な国・地域との関係強化、国民間の相互理解促進

#### 企業等との連携による人材育成と活用

・日本とアフリカの双方を熟知した高度専門人材の育成  
・高度専門人材の活躍による日・ア、及び世界の持続可能な開発への貢献  
・企業など実務機関の日・ア協力への貢献

#### 国際協力機関等での就職を希望する学生

・世界と日本の持続可能な開発に貢献するグローバルな高度専門人材の活躍



## 【具体的な計画内容】

### 1. 日本のアフリカに関わる大学間教育連携国内ネットワークの形成

- ・日本アフリカ大学世界展開力強化事業国内会議: 本世界展開力強化事業選定大学と開催。日本-アフリカ間教育交流のモデルケースを創出・発信。
- ・日本アフリカ高度人材育成国内大学ネットワーク: 本事業選定大学+アフリカ教育交流に意欲・関心を持つ国内大学と形成。教育連携を助言・支援。

### 2. アフリカ及び日本の大学間教育交流ネットワークの形成

- ・アフリカ・日本大学教育交流ミーティング: アフリカの各地域の主要大学 + 国内大学ネットワークと開催。アフリカの各地域の主要な大学と日本の諸大学の間の教育交流を推進。

### 3. アフリカに関わる実務機関と大学をつなぐ協力枠組の形成

- ・日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会: 政府諸官庁、在日アフリカ外交関係者、経済団体・企業、国際協力機関、NGO・NPO、外部有識者と組織。各機関・団体から助言・支援。
- ・アフリカ実務組織・大学交流会: アフリカに関わる企業・NGO等実務組織 + 国内大学ネットワークと開催。双方への留学生のキャリア形成の参考事例を収集し、発信。

### 4. アフリカの大学における教育の状況に関する情報プラットフォームの構築

アフリカの諸大学における教育、留学生受入、輩出人材、留学希望などの情報収集と体系的整理・データベース化。

### 5. 安全健康、生活及び危機管理の情報プラットフォームの構築

心身の安全と健康のために、アフリカ各国及び日本の治安・感染症、保健医療施設、関係法令に関する情報を収集・体系化・データベース化。

## 【本事業の特徴】

日本とアフリカ諸国間の大学間教育交流は未だ限られている背景には、日本の大学間連携が十分でなく、日本・アフリカ相互の大学の情報共有も限られているとともに、学生・教員にとり、双方の地域への留学とそれを通じたキャリア形成に有益な情報が得にくいことがある。本事業では、アフリカで教育研究の実績を積み上げてきた京都大学と東京外国語大学が、本世界展開力強化事業選定大学をはじめとする日本の諸大学の間、アフリカと日本の諸大学の間、及び日本の大学と関係諸実務組織の間のネットワーキングを進めるとともに、アフリカとの交流を目指す大学に役立つ情報を体系化し、それを共有・公開し、交流の基盤を整備する。

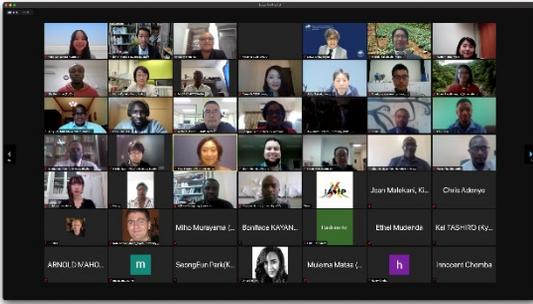
# 1. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【京都大学-東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 2020年度 タイプA)

アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム

## ■ 交流プログラムの実施状況



〈第1回国際合同コンフェレンス参加者集合写真(2021年3月19日)〉

- ・アフリカの大学から2名の学生を受け入れ、オンラインでの短期集中プログラムや日本語・日本文化の理解のための交流ツアーを実施した。
- ・2021年3月19日に国際合同コンフェレンスを京都大学がオンラインで開催し、計13カ国14大学から79名が参加した。発表者について、一定の基準を満たすと認められた学生にCertificateを授与した。
- ・2021年3月25日に国際合同コンフェレンスを東京外国語大学がオンラインで開催し、アフリカと日本から70名以上が参加した。アフリカ大学紹介、東京外大への留学学生による体験発表を実施し、東京外大学生20名、アフリカからの学生6名の体験記を冊子化し活用、またWeb上で広く公開した。

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、初年度は日本人学生を渡航させないこととしたが、第1回の国際合同コンフェレンスでは、**京都大学の3名の大学院生がアフリカのSDGsに関する多様な研究内容について発表し、討議をおこなった。**2回の国際合同コンフェレンスには多数の日本人学生が参加し、オンラインでの学生交流がおこなわれた。

### ○ 外国人留学生の受入

関連事業によって、**プロテスタント人文・社会科学大学(ルワンダ)から2名の学生を受け入れた。**これらの学生に対して、オンラインで2020年度冬季短期集中プログラム(日本語集中授業[初級・中級]、日本語・日本文化の理解のための交流オンラインツアー[広島・瞑想・沖縄])を実施し、参加学生の日本への文化を深め、日本とアフリカの共創によるイノベーションを実現する次年度以降の人材育成の先例とすることができた。

|       | R2 |    |
|-------|----|----|
|       | 計画 | 実績 |
| 学生の派遣 | 0  | 0  |
| 学生の受入 | 2  | 2  |

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・アフリカの14大学の内13大学と連絡を開始し、学生交流協定の締結に向けた協議を開始した。5大学と、協定校別の学生交流の説明会を順次実施した。これより、担当者間の連携が強化され、事業計画を深化させることができた。13大学との大学別協議において、学生交流協定の締結と大学間協定に基づく単位互換制度を積極的に推進していくことを相互に再確認した。さらに、**ステレンボッシュ大学(南アフリカ)と新たに国際学術交流協定を締結した。**

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・本事業の事務局担当者として、京都大学において本事業専任の時間雇用研究員を3名、事務補佐員を1名、および東京外国語大学では本事業専任の特任助教(コーディネーター)を1名、事務を補佐する特定専門職員を1名採用した。

・**京都大学および東京外国語大学内に事務局機能を有する場所を設置したことで、学内の多他部局に渡る関係教員の連携が強化され、複数の部局にて派遣・受入される学生の連絡・相談窓口として学生を支援する体制を整えることができた。**遠隔教育用情報機器の整備により、派遣・受入後の学生の教育を円滑に実施するための基盤を整備した。受入学生に対しては、保険加入等の事務手続きの個別サポートを行った。また、派遣学生に対しては、危機管理費及び危機管理体制の案内等、危機対応に関する情報提供を行った。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

- ・本事業の情報を集約したウェブサイトの日英で開設し、SNSを積極的に活用しつつ、国内外の日ア学生交流に関係するステークホルダーへの情報の公開と国際合同コンフェレンス等の本事業の成果の発信・普及に努めている。
- ・アフリカでの研究経験があり、英、仏、あるいは現地語の高い運用能力を有するスタッフを雇用し、現地向けの情報発信力を強化した。
- ・**京都大学のアフリカオフィス(エチオピア)および東京外国語大学のGlobal Japan Office(南アフリカ)及びGlobal Japan Desk(ルワンダ)と連携し、今後の事業の実施体制を整えた。**



概要

大学の国際化推進事業は、国際化の進展と並行して、外国人の来日と大学間の国際化の推進を目的として、外国人学生の受け入れ、日本人学生の海外留学、外国人学生の国際的関与を目的とした事業です。これにより、アジア、米国、欧州、AISA研究事業が展開されてきました。

〈本事業の情報集約・発信のための日本語・英語のホームページの開設〉

## ■ グッドプラクティス等

**2件の国際合同コンフェレンスにアフリカの13カ国14大学を含む合計150名ほどがオンラインで参加したことで、オンラインならではの大規模・多国間による交流を実現することができた。**関連事業によって2名の学生をアフリカから受け入れ、オンラインで冬季集中プログラムに参加させ、単位を付与した。

# 1. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【事業の名称】(採択年度 2020年度 タイプB)

アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のためのプラットフォーム構築プログラム

## ■ 取組状況

### 5つのプラットフォーム構築プログラム

- ① 日本のアフリカに関わる大学間教育連携国内ネットワークの形成
- ② アフリカ及び日本の大学間教育交流ネットワークの形成
- ③ アフリカに関わる実務機関と大学をつなぐ協力枠組の形成
- ④ アフリカの大学における教育の状況に関する情報プラットフォームの構築
- ⑤ 安全健康、生活及び危機管理の情報プラットフォームの構築

日本とアフリカの大学間  
国際教育連携の加速

- ・アフリカの重要な国・地域との関係強化、国民間の相互理解促進

企業等との連携による  
人材育成と活用

- ・日本とアフリカの双方を熟知した高度専門人材の育成
- ・高度専門人材の活躍による日・ア、及び世界の持続可能な開発への貢献
- ・企業など実務機関の日・ア協力への貢献

国際協力機関等での  
就職を希望する学生

- ・世界と日本の持続可能な開発に貢献するグローバルな高度専門人材の活躍



・上記の①と②については、**アフリカの大学との教育交流に関心のある国内大学間で連携するため、「第1回国内実施大学会議」をオンラインで開催**した。世界展開力事業に採択された10大学による国際連携教育プログラムの内容を報告し、主要な実務機関とも育成する人材について意見交換を実施した。本会議には事業採択校以外の大学15校も参加し、採択校とのネットワーク化が実現し、非採択校を含む「国内大学ネットワーク」の構築に日本アフリカ大学連携ネットワークの全面的協力を得た。

・上記の③については、「**日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会(及び事業評価委員会)**」設立のため計8機関の実務組織と個別にオンライン会合の場を設け、各組織より支援委員派遣の承諾を正式に得た。実務組織は、政府機関(JICA、JETRO)、産業界(日本経済団体連合会国際協力本部、豊田通商株式会社)、NPO(あしなが育英会)、国際機関(世界銀行、アフリカ開発銀行、国連開発計画)と幅広く、インターンシップの機会提供やアフリカ実務組織・大学交流会への参加についても協議した。

・上記の④については、**本事業独自のウェブサイト**を2021年2月に開設し、その特設ページに次年度以降掲載するコンテンツの作成に着手した。アフリカ主要大学情報のデータベースについて、上記ウェブサイトの特設ページに今後掲載するアフリカ各国の主要大学の情報を収集している。まずは、京都大学と東京外国語大学が提携している協定校12大学について基礎情報を整備・体系化したうえで、随時ウェブに掲載していく。

・上記の⑤についても、特設ウェブサイトを開設し、コンテンツの作成を開始した。**アフリカ9大学と安全・生活・危機管理等の情報収集での協力の合意**を得られ、今後、日本では入手し難いアフリカ現地の安全・生活・危機管理等の情報を収集できる体制を整えた。また京都大学アフリカ地域研究資料センターは、アフリカの国別の安全・生活情報を記載した冊子を5カ国分発行しており、その情報をオンライン化しつつ、さらに現在のコロナ禍の状況についての新しい調査を開始した。このようなデータベースの作成と公開は、今後の現地情報収集・発信を効果的に進め、日本とアフリカの双方の学生の留学時の教育内容の確保および安全・安心の向上に寄与するものであり、次年度以降の日本人学生の派遣とアフリカからの留学生の受入を円滑にするものである。

## ■ 特記すべき事項等

アフリカでの教育交流に関心を持つ国内大学間での連携を強化・加速させるために、「第1回国内実施大学会議」をオンラインで開催し、世界展開力事業に採択された10大学に加え、**実務組織2機関および採択校以外の大学15校から100名弱の参加があり、これまでにない国内の大学間のオールジャパン体制のネットワークを構築**することができた。この会議では、アフリカでの教育交流についてのプラットフォーム構築のための基礎的な共通理解の形成をおこない、参加した大学間の実質的な協力関係の構築への足がかりとした。



## 2. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【京都大学・東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)

アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈京都-アフリカIAIP短期オンラインコース開講式(2021年9月21日)〉

- 京都大学・東京外大で、合計3名の日本人学生のアフリカへの長期派遣を開始した。
- 京都大学では、2021年9月から12月に、アフリカの大学の学生向けの短期オンラインコースを実施し、7カ国から10名の学生が参加した。
- 東京外大では、2021年8月から9月に国際オンラインスタディツアーを実施し、ルワンダと日本から37名が参加、13名に修了書を発行した。
- 国際合同コンフェレンスを2回開催した。2021年11月の東京外大の開催時には、2日間にわたる6つのセッションに各66名程度の参加があった。2021年12月の京都大学のオンライン開催時には、11カ国12大学31名が研究発表をおこなった。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

- 京都大学では、2022年2月から3月にアディスアベバ大学(エチオピア)との共催により日本人学生向けのオンライン短期コースを実施し、計10名が参加した。また日本人学生2名が、それぞれカメルーンとマダガスカルでの長期派遣を開始した。
- 東京外大では、プロテスタント人文・社会科学大学(ルワンダ)とのオンライン講義で、日本人学生5名に単位を付与し、日本人学生13名に修了証(単位付与無し)を発行した。さらに、ステレンボッシュ大学と実施したオンライン講義で、日本人学生7名に修了証を発行した。また日本人学生1名がプロテスタント人文・社会科学大学への長期派遣を開始した。

#### ○ 外国人留学生の受入

- 京都大学では2021年9月から12月に、アフリカの大学の学生向けの短期オンラインコースを実施し、6カ国から9名の学生が参加し、修了証を発行した。
- 東京外大では、プロテスタント人文・社会科学大学から2名の学生を受け入れた。

|       | R3 |    |
|-------|----|----|
|       | 計画 | 実績 |
| 学生の派遣 | 12 | 38 |
| 学生の受入 | 10 | 11 |

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 「アフリカ大学世界展開力強化事業国内会議」を組織するとともに、「日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会」「アフリカ実務組織・大学交流会」「日本・アフリカ大学教育交流ミーティング」をオンラインで開催したことにより、今後の本事業における各大学・組織間との連携を深め、成績評価システムや単位認定などの制度面の拡充に向けた体制を構築できた。
- アフリカ7大学と学生交流協定を締結したことにより、次年度以降に学生の派遣・受入を実施する連携体制を整備することが出来た。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 本事業の事務局担当者として、京都大学において2021年4月から特定研究員2名、事務補佐員1名を雇用した。東京外国語大学では、2021年4月から事務補佐員を雇用したほか、特定助教1名の雇用を昨年度より継続した。
- 2022年3月、アフリカへの留学を希望する日本の学生および、日本への留学を希望するアフリカの学生を対象として、専攻、支援制度、過去の受入実績、受入教員の情報など、日本・アフリカの大学の留学情報に関して、高度な検索機能を備えたデータベースサイトを構築し、運用を開始した。このデータベースにより、留学を希望する学生が、学びたい内容や各大学の受け入れ体制および支援制度について、詳細な情報を容易に検索できるようになった。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

- アフリカ7大学と京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科等とで部局間学生交流協定を締結した。さらにアフリカ4大学と京都大学の関連部局の間で協定締結の合意が出来ており、次年度中に締結することでさらに対象校を拡充する予定である。そのうち、アジスアベバ大学とコチュテルプログラムの実施に向けた協議を開始した。
- 東京外大では、教員のルワンダ・ザンビア出張を実施した。結果、2022年秋受入についてプロテスタント人文・社会科学大学(ルワンダ)からは過去最多の3名、ザンビア大学からは初となる2名の申請があり、受入人数の増加につながった。

### ■ グッドプラクティス等

- 2回の国際合同コンフェレンス(オンライン)の実施により、アフリカの大学からの参加を得たことで、アフリカSDGsの多様性への理解を深め、日・アフリカの双方の学生が参加し合うことによるイノベーション共創につながる基礎を築くことができた。
- 2名の学生をアフリカから受け入れ、オンラインで冬季集中プログラムに参加させ、単位を付与した。



〈第2回国際合同コンフェレンス参加者集合写真(2021年12月13日)〉

## 2. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプB)

アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のためのプラットフォーム構築プログラム

### ■ 取組状況

#### 【①日本のアフリカに関わる大学間教育連携国内ネットワークの形成】

- アフリカの大学との教育交流に関心のある国内大学間で連携するため、国内実施大学会議を計4回オンラインで開催した。実施大学10大学だけに限定した形式と、他のイベントと合同で他大学も参加可能な公開形式に分けたことで、効果的な情報共有とネットワークの拡大が可能になった。前者については、実施大学10校から世界展開力強化事業担当の教員・職員あわせて46名が参加し、各大学が実施している教育交流プログラムを紹介するだけでなく、実施上の問題点やその解決策等を関係者内で自由に議論できる場を提供した。後者については、アフリカの大学との教育交流事業を独自に展開している大学(京都精華大学、愛媛大学など)にも参加・登壇してもらうなど、ネットワーク拡大の場として機能した。国内実施大学会議を実務と交流の双方の場として設けることを通じて、アフリカで教育交流を行う国内大学が集うオールジャパン体制を構築することが出来た。



〈第1回日本・アフリカ大学教育交流ミーティング  
(2022年3月11日)〉

#### 【②アフリカ及び日本の大学間教育交流ネットワークの形成】

#### 【③アフリカに関わる実務機関と大学をつなぐ協力枠組みの形成】

- 2021年10月に第1回日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会、2022年1月に第1回アフリカ実務組織・大学交流会、3月に第1回日本・アフリカ大学教育交流ミーティングをそれぞれオンラインで開催し、国内実施大学10校とアフリカで活動する実務機関との交流の場を設けた。これらの会議には、国内実施大学に加えて、アフリカの大学と教育交流を行う他の大学や日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)の加盟大学など、本事業の枠を超えて参加する大学や組織が多く、アフリカに関わる実務組織と大学を繋ぐプラットフォームの基盤が出来た。特に第1回日本・アフリカ大学教育交流ミーティングには、日本から15大学、アフリカから11大学(ステレンボッシュ大学・アディスアベバ大学他)、その他教育事業に関わる5団体(あしなが育英会・豊田通商他)から計79名が参加した。これらの会議を通じて、参加大学と実務組織が連絡を取り合えるよう、本事業事務局が連絡先をリスト化し、インターンシップの機会や各大学がアフリカで実施するプロジェクトについて情報交換できる体制を整えた。
- 「日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会」を発足させるため、2021年8月より実務組織9機関(国連開発計画、アフリカ開発銀行、世界銀行、独立行政法人国際協力機構(JICA)、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)、日本経済団体連合会、豊田通商株式会社、一般財団法人あしなが育英会、認定NPO法人テラ・ルネッサンス)の代表者に正式に委員として就任を依頼する書面を送付し、オンラインで面談を行った。
- 国内の実務組織におけるインターンシップ計画については、「日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会」に参加する企業(豊田通商など)や政府機関(JICAなど)と協議し、次年度以降アフリカ人学生が渡航した際のインターン受入について支援の承諾を得た。

#### 【④アフリカの大学における教育の状況に関する情報プラットフォームの構築】

- 日本・アフリカの大学の留学情報について、専攻、支援制度、過去の受入実績、受入教員の情報などに関して、高度な検索機能を備えたデータベースサイトを構築し、運用を開始した。アフリカ各国からの学生の受入状況も確認できるようになり、アフリカから日本、または日本からアフリカへの留学を希望する学生が、留学先を検索できるシステムを立ち上げた。
- 日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)をつつじて、アフリカからの留学生の受け入れに関する情報収集を開始した。

#### 【⑤安全健康、生活及び危機管理の情報プラットフォームの構築】

- 2022年3月、世界展開力事業のホームページ内に、アフリカ主要大学に関する情報及びアフリカ13ヶ国における安全・健康・生活及び危機管理の情報を提供するページを作成した。また、安全・健康・生活及び危機管理の最新情報を、随時自動で取得・閲覧できる仕組みを構築した。これにより、現行の世界展開力事業ホームページでは、アフリカの安全・健康・生活及び危機管理に関する最新の情報を入手できるようになった。
- 安全健康管理委員会を立ち上げ、学生の安全健康管理に取り組むとともに、個々人の安全健康管理カルテを作成できる仕組みを構築し、ワクチンの接種状況、持病・既往症、保険の加入状況などの情報を管理できるようにし、実渡航での留学の開始後に運用できるようにした。

### ■ 特記すべき事項等

- 国連開発計画、世界銀行、JETRO、日本経済連合会他が委員として参画する「日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会」が発足し、実務的な観点からも意義あるイノベーション人材を創出する基盤を整えた。
- 2021年9月には、アフリカでのフィールドワークの再開のために、アフリカ5カ国(エチオピア、ケニア、ウガンダ、カメルーン、マダガスカル)における新型コロナウイルス対応と社会情勢をまとめた冊子を発行した。
- 2022年1月以降、日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)を通じて、アフリカからの留学生の受け入れに関する情報収集を開始した。



〈アフリカ高度専門人材育成支援委員会  
(2021年10月5日)〉